

1. プログラムの背景と概要

ミュージアムとその専門職員である「学芸員」への期待・要請が、近年高まっている

しかし現場の学芸員は日常業務に追われ、体系的に学び直す機会が乏しい

大学のリソースを活用し、学芸員のリカレント（学び直し）教育の場をつくることが必要

文化庁「大学における文化芸術推進事業」の助成を受けて
北海道大学学芸員リカレント教育プログラム
(通称「学芸リカプロ」)
2018年度より開始！

- ・企画展の立案・運営・評価に関するスキルの深化
- ・地域の芸術文化活動の支援
- ・地域の文化発信力の底上げ

2. 特色ある取り組み

特色1 参加者の多彩な顔ぶれ

受講生・聴講生のなかには…

北海道立近代美術館、北海道博物館、北海道立帯広美術館
北海道立旭川美術館、北海道立釧路芸術館、札幌芸術の森美術館
モエレ沼公園、本郷新記念札幌彫刻美術館、小川原脩記念美術館
苫小牧市美術博物館、神田日勝記念美術館、札幌市市民交流プラザ
ニトリ小樽芸術村、などの現役学芸員や職員

- ・2018年度の参加者は**35名**、2019年度は**40名**
- ・北海道各地から参加者が集まり、貴重な情報交換の場にもなる
- ・北大オープンエデュケーションセンターの協力により、講義等の映像を教材化することで、本務が多忙・遠隔地在住等のため頻繁に参加できない受講者にも**講義を配信**

特色2 実践と理論のバランス

最新の知見や技術に触れる「シンポジウム」と「講義」

- ・講義のテーマは展示会の企画、館のマネジメント、事業評価、資料保存、博物館倫理、ミュージアムグッズなど、多種多様。
- ・2018年度は、**のべ16名**の講師を招聘。

企画展制作に取り組む「実習」

- ・最終年度となる**2020年度に北大総合博物館で企画展を開催**予定。そのための準備を通じて、実践的に学ぶ。
- ・グッズ開発や事業評価等、日常業務で経験しにくい要素にも挑戦できる。

学内のリソースを活用し、社会との接点を探る公開イベント「特論」

- ・人形劇×考古学、建築×煎茶道などを掛け合わせた公開イベントを開催。学内外との積極的な連携により、大学と社会との良い関係を築くことにも寄与する。



特色3 成果を積極的に公表

期待される効果

受講生にとって

実務によって身につけてきた実践知を体系的に整理し、展示会の企画、事業の評価、館全体のマネジメント等の課題を明確化できる。

地域の博物館にとって

事業の枠組みを超えた人的ネットワークが形成され、人材、コネクション、情報の活用が推進されるとともに、館の企画力が高まる。

2018年度公開成果報告会

受講生による研究発表やシンポジウムを開催。一般来場者を含む137名が訪れ、次年度以降への手応えを得た。



3. 取材対応者



佐々木亨[写真]
(北海道大学大学院文学研究院教授、本プログラム代表)

- ▶ 今村信隆 (同研究院特任准教授)
- ▶ 亀丸由紀子 (北海道博物館学芸員)
- ▶ 山田のぞみ (本郷新記念札幌彫刻美術館学芸員)
- ▶ 大澤夏美 (ミュージアムグッズ愛好家)

参考URL
<https://www.let.hokudai.ac.jp/general/recurrent-about/>



連携 (全学的な研究広報)



<https://terrace.cris.hokudai.ac.jp/>